

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2017-1010-1	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:コホート調査参加者(宮城、岩手) 約15万人 試料:なし 情報:基本情報、臨床情報、検体検査情報、健康調査情報、ゲノム情報(全ゲノム、SNPアレイ)
主たる研究機関	慶應義塾大学		分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構、大阪大学、東京医科歯科大学、東京都健康長寿医療センター、豊橋技術科学大学、国立健康・栄養研究所、順天堂大学、九州大学、三重大学、名古屋大学、理学研究所大阪市立大学、新潟大学、埼玉医科大学、脳血管研究所、長寿医療研究センター、東京大学、岩手医科大学、宇都宮病院、ポストン大学(米)、ニューカッスル大学(英)、マドリッド大学(西)、パヴィア大学(伊)、アメリカ国立老化研究所(米)、シカゴ大学(米)、ニューサウスウェールズ大学(豪)、ディーブマインドテクノロジー社(英)	
研究題目	主題:包括的国際百寿者研究 ―健康長寿達成に向けて― 副題:第1部 寿命関連遺伝子(長寿遺伝子)と加齢関連遺伝子の同定			研究期間	承認日～2026年3月
実施責任者	新井 康通	所属	医学部百寿総合研究センター		職位 教授
研究目的と意義	世界的な超高齢化を背景に健康寿命の延長が国家的に重要な課題となっている。百寿者、超百寿者は健康寿命が長く、健康長寿モデルである。百寿者の医学生物学的特長、生活習慣を明らかにすることが国民一般の健康長寿を支える知識基盤となる可能性が示唆されている。 本研究の目的は、健康長寿達成に資する遺伝的要因を明らかにするために、ヒトにおける寿命関連遺伝子(長寿遺伝子)と加齢関連遺伝子を同定することである。				
研究計画概要	すでに本機構で解析を終了した全ゲノム配列の情報およびマイクロアレイ解析を行った参加者のゲノム情報と、および血液検査データ、健康調査データ、年齢情報(両親の死亡年齢も含む)を提供し、百寿総合研究センターで2021年3月31日までに解析終了した百寿者のゲノム解析の結果とあわせて解析を行う。				
期待される成果	本研究は人の健康長寿モデルである百寿者を対象としており、ほかの対象からは得がたい貴重な科学的所見が得られる可能性が高い。				
これまでの倫理 審査等の経過	2022年2月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	人を対象とする生命科学・医学系研究倫理指針のほか、試料・情報の取扱いに当たっては、ToMMoが定めるセキュリティポリシー及び別途締結する研究契約を遵守する。 試料・情報の解析は、スーパーコンピュータ内に限って行う。データには、ToMMoのほかは慶應義塾大学研究者のみがアクセスし、他の共同研究機関へは解析結果のみが共有される。				
その他特記事項	大学運営費交付金				
(事務局使用欄)					